

経営比較分析表（令和4年度決算）

栃木県 那珂川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.34	96.69	4,290	

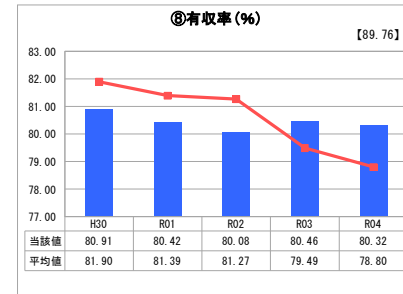
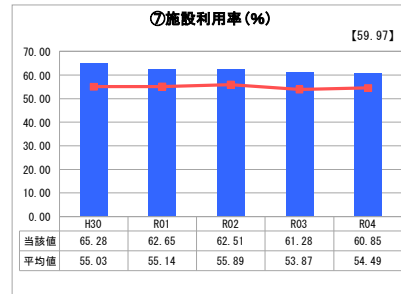
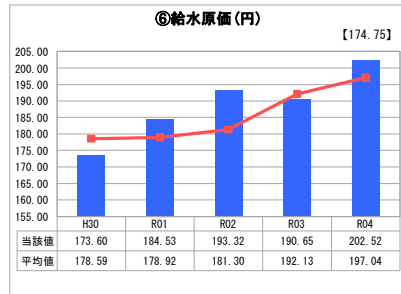
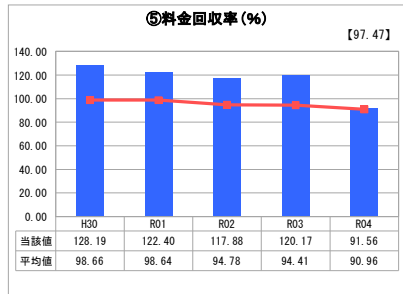
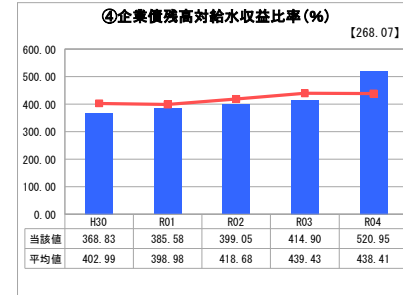
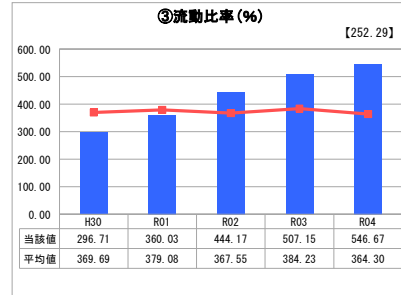
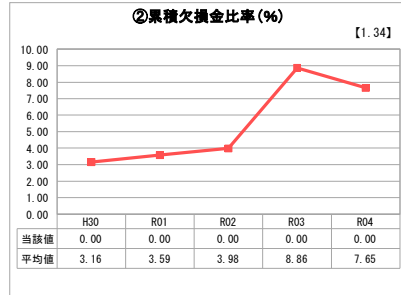
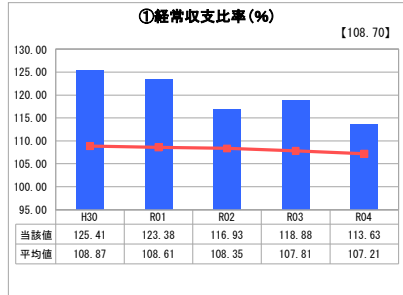
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,865	192.78	77.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,269	192.78	74.02

グラフ凡例

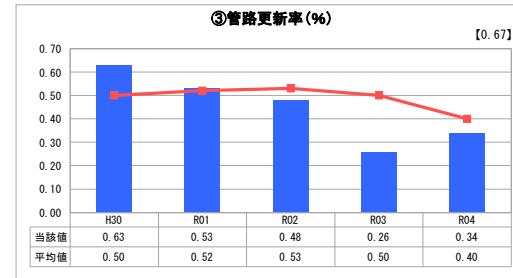
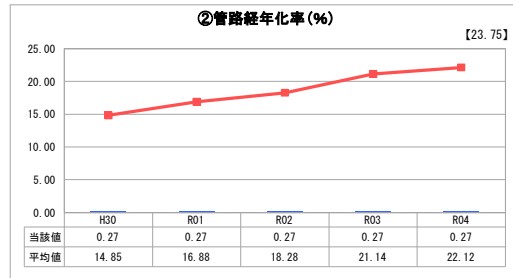
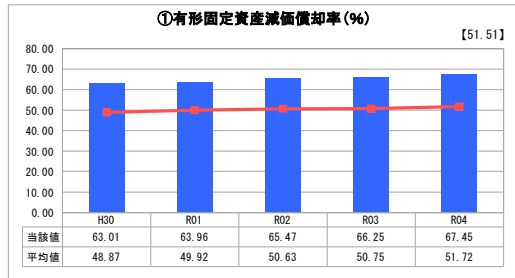
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、R3年度が一時的に増加しているものの、R4年度については、電気料金の高騰等の影響で減少しており、全体的には減少傾向となっている。⑥給水原価についても同様にR3年度は一時的に減少しているが、全体的には増加傾向となっている。

② 流動比率は近年増加傾向で、類似団体平均値を上回っており、経営改善はされているが、将来を見据えて、内部留保資金を増加させ、経営の安定性を担保するよう努める必要がある。

③ 企業債残高対給水収益比率は、R3年度までは類似団体平均値を下回っていたが、R4年度については、設備投資の増加により起債額が増加したため平均値を上回っている。今後も老朽化した管路・設備の更新を行っていく必要があるため、増加していく見込みである。

④ 料金回収率は、R3年度までほぼ横ばいとなっていたが、R4年度については、電気料金の高騰の影響で動力費が増加したため、回収率が減少している。今後も設備投資の増加により減価償却費の増加が見込まれるため、同様に減少していく見込みである。

⑤ 施設利用率は類似団体と比較して、高い水準となっており、おおむね適正な施設規模・設備性能であるが、今後の水需要予測に基づき、ダウンサイジングやスペックダウンを引き続き検討していく。

⑥ 有収率は、管路の漏水調査業務委託を実施し、漏水箇所の修繕を随時行っており、類似団体平均値を上回っているが、今後も継続的な更新を実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 管路経年率は横ばいであるが、①有形固定資産減価償却率は増加しており、施設や管路の老朽化が進んでいる。

② 管路更新率は、R4年度はR3年度に比べると増加しているが、類似団体平均値を下回っている。今後も継続して計画的な更新を実施していく必要がある。

全体総括

今後、老朽化した施設・設備・管路が増加することから、経営状況との調整を図りながら、計画的で持続的な更新をしていく必要がある。

また、適切な水需要予測に基づくダウンサイジングやスペックダウンを実施し、財政負担の軽減及び機械設備の適正化を図る必要がある。